



TITLE:

一月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

一月の天象. 天界 1922, 3(25): 29-29

ISSUE DATE:

1922-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159809>

RIGHT:

# 一月の天象

## 太陽

一月中の太陽の赤緯は十八時四十二分から二十時五十二分迄増加し、赤緯は南二十三度六分から南十七度三十五分迄變化する。六日午後五時十五分小寒。二十一日午前十時三十五分磨羯宮より寶瓶宮に入る大寒。

## 地球

三日午前八時近日點通過。  
月 三日前十一時三十三分滿月。十日午前九時五十五分下弦月。十七日午前十一時四十一分新月。二十五日午後〇時五十九分上弦月。八日午後八時五十四分近地點通過。二十三日午後十時二十四分遠地點通過。

## 水星

十五日には赤緯二十一時二分、赤緯南十七度一分即ち山羊座シタ星の東にあり十六日に光度負〇・〇等視直徑三四・五三秒。月半に地球よりの距離一億三千七百八十四萬八千六百籽。十三日午後七時東方十八度五十六分の最大離隔。十六日午前八時昇交點通過。十八日午後十一時五十九分下弦月と合(月の二度二十四分南にあり)二十日午前四時留。二十日午後十時近日點通過。二十九日午後一時太陽と退合。三十一日午前五時北方最大日心黃緯。

## 金星

十五日には赤緯十六時三十三分、赤緯南十七度三十一分即ち蛇遺座フイー星の東南にあり。十六日には光度負四・三等。視

直徑三一・四二秒。月半に地球よりの距離は七千七百九十二萬三千八百籽。六日午後五時近日點通過。十三日午後九時五十九分下弦月と合(月の南〇度三十一分にあり)二十八日午後四時北方最大日心黃緯。

## 火星

十五日には赤緯二十三時四十五分、赤緯南二度九分、即ち水瓶座と魚座との境界にあり。十五日には光度一・二等視直徑五・七五秒。月半の地球よりの距離二億四千二百二十八萬三千二百籽。二十二日午後四時三十三分下弦月と合(月の北〇度二十九分にあり)。

## 木星

十五日には赤緯十四時五十三分、赤緯南十五度二十三分即ち天秤座ヌー星の西方にあり。光度負一・五等、視直徑三十四・五三秒。月半の地球よりの距離八億五千三百一十一萬七千三百籽。十二日午前五時二分下弦月と合(月の南二度五十九分にあり)。

## 土星

十五日には赤緯十三時十七分、赤緯南五度二十九分即ち乙女座エル星の西方にあり。光度〇・九等、輪の長徑三十九秒、短徑八七秒。月半の地球よりの距離十四億一千九百七十萬六千四百籽。十日午前十一時四十三秒下弦月と合(月の此〇度十分にあり)十一日午前十時太陽と短象。三十一日午前五時留を経て逆行となる。

## 天王星

十五日には赤緯二十二時五十分、赤緯南八度八分即ち水瓶座ラムダ星の附近に

ありて順行す。月半に於ける地球よりの距離三十億六千八百四十九萬六千七百籽、二十一日午前三時十八分下弦月と合(月の南一度四十五分にあり)。

## 海王星

十五日には赤緯九時十九分、赤緯北十五度四十八分即ち獅子座と蟹座との境界にあり。月半に於ける地球よりの距離四十三億三千七百六十六萬九千六百籽。六日午前三時三十四分下弦月と合(月の北三時十分一分にあり)。

## 流星群

上旬には龍座流星群の出現あり。四日曉に最も出現顯著なり。今回は満月に當るため觀測に不便なるべし。下旬に牧夫座北部より甚だ迅かなる輻射あるべし。

## アルゴール極小時推算(中村)

十六日午前二時二十分  
十八日午後十一時十分  
二十一日午後七時五十九分

## 正誤

前號のアルゴール極小時中二十五日、二十八日の分は共に午後の誤  
十二月號天象欄中火星の距離は哩で表はす筈、里とある誤りにつき訂正す。